



発行所 十勝毎日新聞社

©十勝毎日新聞社 2001

〒080-8688

帯広市東1条南8丁目 TEL(代表)0155-22-2121

編集局 0155-22-2121

広告局 0155-23-2323

販売局 0155-24-2222

事業局 0155-22-7555

総務局 0155-24-2299

広尾支局 01558-2-4111

池田支局 01557-2-2367

本別支局 01562-2-2618

新得支局 01566-4-5524

札幌支社 011-261-2161

東京支社 03-3544-1365

「十五年前まで過疎に悩んでいた大樹は今や宇宙への玄関となり、宇宙センターの長さ一万尺の滑走路からスペースプレーンがワントン、パリ、モスクワへ飛んでいる。周辺にはロケット打ち上げ施設、先端技術企業が建ち、国際宇宙工科大学で学生たちが宇宙飛行士目指して勉強している。」



■■中■■



海に近く、周囲が広く開けた大樹町多目的航空公園。飛行船が飛ぶ日も近い

## 地元企業の受注も可能

だ。十四年たった現在、残念ながら夢は実現していないが、取り組みは確実に地元にも効果を与え始めている。

■■■■■■■■■■

# 試験期間に数百億円の期待

昨年度、大樹では国、民べ二千八百人を数えた。このほど町が調べた経済効果では、宿泊食事が二千八百万円、機材発注、駐機やレンタカー代なども数千円に上った。

試験した小島秀俊企画課長は「思ったより大きな額になった。滑走路整備もたまたまだった。実験誘致は予想以上に広範囲に波及効果をもたらしている。」

地域政策部の窪田毅部長は「百人となると周辺にも効果は広がる。格納庫などの建設は地元企業の受注も可能だろうし、直接、間接

には二〇〇四年までに約二百億円の投じられる。「一定点滞空試験」を行う大樹には、気象観測施設、格納庫、実験棟、追跡レーダーを建設。気象観測に五十人が常駐し、四月から十月の試験期間中は約百人が滞在するほか、支援要員としての現地雇用も想定されている。十勝支庁は今年度、新規事業として取り組む「十勝圏モノづくり産業支援事業」の中で実験が圏域内外に与える波及効果を探り、受け入れ態勢の整備を進めることになっている。

町には道内の大学などが研究する「ハイブリッドロケット」発着基地の構想もある。いつの日か、十四年前の夢に近づく時が来るかもしれない。

■■■■■■■■■■